

cep

communication

・特集・

志プロジェクト 2024

～企業にとって「謝罪」とは～

Mar.2025 vol. **62**

株式会社アピックス 社外報



100 Years and Beyond

APIX

志プロジェクト2024 ～企業にとって「謝罪」とは～

本年度のテーマは「企業の謝罪から学ぶ」でした。大阪経済大学の稲岡先生、中村先生からお話を伺いました。

志プロジェクトとは

「志プロジェクト」は、大学・企業・金融機関による産学連携プロジェクトです。大学生が地域企業を訪問し、取材を通じて相互理解を深め、地域人材の育成を目指しています。大阪地区は2017年より開始され、2022年から大阪経済大学の「地域企業連携実習」として実施されています。



大阪経済大学
経営学部 ビジネス法学科
稲岡 大志 准教授

「謝罪」の複雑さに触れる

今年度は「謝罪」をテーマとして、企業取材を通して、謝罪の実態や謝罪への向き合い方などを伺い、なぜ人は謝罪をするのか、そもそも謝罪とはどのような行為なのか、といった根源的な問いに迫りました。学生たちは実務的かつ概念的な観点から謝罪について理解を深め、「誠意ある謝罪」とは何か、不明瞭な責任状態での謝罪は誠実と言えるのか、といった魅力的な問いを立ててくれました。謝罪という行

為は、相手への補償という利他的側面と良好な関係継続を望むという利己的側面とを合わせ持ちます。学生たちは取材を通して「謝罪」の複雑さに触れることができました。現場で働く方々からお話を伺うことで仕事に関連することがらの「そもそも」を探究できることがこのプロジェクトの魅力の一つです。来年度も学生と企業の皆さまにも取り組みがいのあるプロジェクトとして継続することを目指します。



大阪経済大学
経営学部 経営学科
中村 信隆 講師

信頼を回復するために誠意ある謝罪を行う!?

今年度初めて志プロジェクトを担当させていただきました。設定したテーマは「企業の失敗と謝罪」です。企業は、失敗をして相手方に迷惑をかけた場合に、信頼を回復するために誠意ある謝罪を行う必要があります。しかし「信頼を回復するために誠意ある謝罪を行う」というのが既に「謎」です。信頼回復は基本的に自社の利益のため、つまり打算的なことであり、しかしその打算は「誠意」とは矛盾す

るからです。このような「謎」に気づいたうえで、どのように謝罪すればよいのかを考えるというのが今回の趣旨と言えます。抽象的で難しいテーマでしたが、学生は取材を通して各企業の謝罪対応の興味深い部分を見つけてよく検討してくれました。また社長をはじめ企業の方々それぞれ信念をもって謝罪等を行っていることを知ることができ、学生にとって貴重な体験となったと思います。

志プロジェクトに参加した学生の声をお届けします!

自分は今まで「リーダータイプでない」と思い、今回もあまり積極的に取り組めなかったので次に機会があればもっと自分から取り組みたいです。

謝罪について様々な意見が出て、チームや企業によって結論も違い、とてもおもしろいと思いました。企業の方の話を聞けてとてもいい機会になったと思います。

授業全体を通して初めて出会った人たちの様々な意見を聞くことができたのでとても良い時間となりました。



事務局の声

インタビューの同行、名刺の作成など、様々な経験をさせていただきました。謝罪というテーマについても私自身考えさせられました。(中西)

学生、参加企業、そして自社の話を聞き、違いや共通点を感じることができました。大変勉強になりました。(大村)



参加して頂いた企業の皆様から お話を伺いました



千房ホールディングス株式会社さま

授業の一環だけでなく、関係を続けていきたいです

志プロジェクトは学生と企業をつなぐと感じました。交流会では他愛もない話から、今の学生の考えを知ることができました。次年度からはオンラインも活用し、直接の交流機会を増やしたいです。他の大学でも同様の取り組みを進め、参加者を増やしていくことが望ましいと思います。



日本鏡板工業株式会社さま

こんな会社で働いてみたいと思っただけならば嬉しいです

実学の間を提供できていると思います。企業見学で従業員の生き活きとした姿を見て、学生が興味を持ってくれれば嬉しいです。過去に志プロジェクトで出会った学生が、現在我が社で活躍しています。地域連携を通じて良い人材を育てたいとやりがいを感じました。



株式会社 商工組合中央金庫さま

学生との交流がもたらす学びと気づき

学生生活の中で社会人と交流する場面は多くないため、このような機会は学生にとって非常に意義深い貴重な経験となったのではないのでしょうか。交流を通じて学生一人一人が自分の意見を持っていることに感心し、社会の中で働く私自身も考えさせられるものがありました。



株式会社 日本電気化学工業所さま

志プロジェクトはお互いメリットになる良い機会

これまでの学生もそうでしたが、今年は質問内容も含め非常に熱心でした。また、社長へのインタビューや工場見学を通して、中小企業の実態を知って頂けたと思います。志プロジェクトは学生に企業をアピール出来る場でもあるため、お互いメリットにもなりますね。テーマについては、次年度にバトンタッチ出来るテーマも面白そうだと思います。



株式会社 アピックス

企業の永遠の課題について考えるきっかけになりました

事前学習や取材を通して疑問に思ったことを、さらなる取材や検証で解決に導こうとする学生たちの熱心さに好感を持ちました。企業の社会的責任のあり方は決して一つの答えに帰結するものではありませんが、時流に沿って常に考え続けることが大切だ、ということプロジェクトを通じて学びました。

—社長—
コラム

「くるぞ、万博。」に思う

代表取締役社長 河村 武敏



大阪市庁舎前「ミyakumiyaku」と

今年の初め、東京で某公益社団法人の賀詞交歓会にて経済産業省のご来賓の方からご挨拶があった際のこと。「今年は大阪で関西万博が開催されることは、皆様ご存じだと思います。日本総出で盛り上げるため、企業の皆様は万博休暇を創設し、またチケットを配布し、是非盛り上げていただくようお願い申し上げます」と冒頭にご挨拶がありました。驚きました！まだまだ年初から盛り上がりや不足状況でもあり、翌日は石破総理が大阪へ激励のため視察に向かうタイミングでもありました。



淀屋橋交差点から御堂筋を臨む

2月上旬の大阪市のネット調査では、万博に「行きたい」、「どちらかといえど行きたい」と答えた人は、▽大阪府で39.6%、▽京阪神圏で32.5%、▽首都圏で22.5%という結果。そのような中、当社も大阪本社の企業として、「関西万博応援！」が社員への福利厚生の良いメッセージになると確信し、急遽チケットを社員全員に配布することを思い立ちました。当社は東京の社員も多数在籍の状況から、「関西万博チケット2枚、または関西万博応援ギフト券」の選択制にしたところ、約32%の社員が関西万博チケットの選択となりました。なんと前述の大阪市調査とほぼ同等の結果！またEXPO'70を経験した年齢上位の社員は関西万博を選択するという傾向に、当時の高度成長期の原体験は強烈な印象があったということですね。

さて添付の写真は大阪市庁舎前の「ミyakumiyaku」とのショット、御堂筋にもEXPO2025ののぼり、そして地下鉄中央線は終点が「夢洲」へ変わるなど、すこしずつ身近に実感することも多くなりました。噂によると万博開催期間の大阪湾岸地区のホテル宿泊は、通常の3～4倍の価格に高騰とか（驚）。今年折しも昭和100年の節目の年、何はともあれそろそろ春の訪れが近い今日この頃、「くるぞ、万博。」をキャッチに、皆様とともに関西万博を盛り上げてまいりましょう。



地下鉄中央線堺筋本町駅のサイン

DXリスティング経営戦略コース 参加レポート

カスタマーリレーション部 部長 岡本 匡史
経営企画室 室長 平岩 伸一



東京都の「DXリスティングプログラム」の経営戦略コースに半年間参加しました。本コースでは、DXの基礎から業界の最新動向、実践的な経営戦略までを学びました。特に、データ活用による意思決定の最適化や、DXを推進する組織変革の重要性を実感しました。今後、学んだ知識を活かし、社内のDX推進と新たなサービス開発に貢献していきます。

株式会社 アピックス

本 社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2 TEL:06-6271-7291(代表)
東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F
BPOリンク大阪 〒542-0082 大阪市中央区島之内1-8-12 徳銀相産ビル3F
URL <http://www.apix.co.jp> E-mail info@apix.co.jp